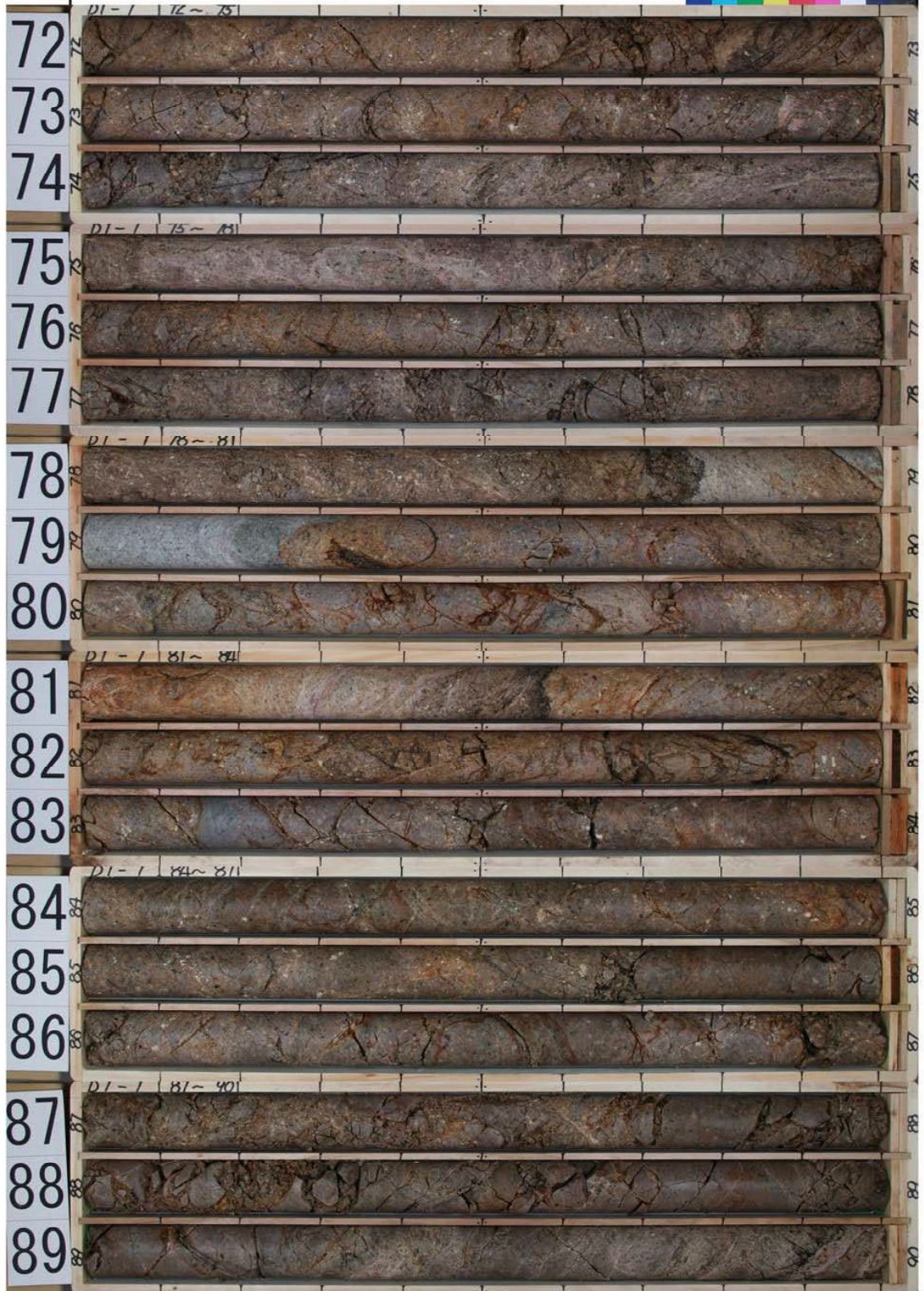


孔番 H24-D1-1 孔

深度 72.00m ~ 90.00m

孔口標高 20.25m



孔番 H24-D1-1 孔

深度 90.00m ~ 100.00m

孔口標高 20.25m



余白

H27-B-1

余白

ボーリング柱状図

調査名

事業・工事名

ボーリングNo. 1

ボーリング名	H27-B-1		調査位置	X:338.353 , Y:1103.283		北緯	35° 45' 19.30"			
発注機関	日本原子力発電株式会社			調査期間	2015年5月23日 ~ 2015年8月11日		東経	136° 1' 1.43"		
調査業者名			主任技師	現場代理人			ボーリング責任者			
孔口標高	20.22 m	角	180° 上 90°	方	北 270° 西 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試験機	ハンマー 落下用具
総掘削長	140.00 m	度	下 0° 45.0°	向	南 90° 東 37.0°			エンジン		ポンプ

標高 尺 (m)	深度 度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	硬軟	割れ目 の形状	風化	変質	記 事	コア採取率 → (%) 最大コア長 → cm R Q D L [%]	岩級 区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (N値~深度) 試験 ( N値 ) 図					原位置試験 (孔内水平位置)	室内試験	掘進 月日	掘進 速度 (cm/時)	コアチューブ / 孔壁保護	給 圧 (KN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)					
													0	10	20	30	40											50				
									0.00~3.00m: 盛土 径5~40mmの灰白色シルト、黒色砂岩、花崗岩類の礫を2~3割含む細~粗粒砂からなる。全体にルーズ。																							
1																																
2																																
3	18.10	3.00							3.00~4.11m: スライム 細~中粒砂からなり、礫はほとんど含まない。																							
4																																
	17.31	4.11							4.11~4.30m: 硬質砂 礫率30%の硬質砂でクサリ礫や半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫は花崗斑岩。礫径は2~30mmの歪角礫。																							
	17.18	4.30							4.15mにはコアの供回りによる傾斜0°、径3~5mmの暗褐色粘土を挟む。																							
	17.11	4.40							4.30~4.65m: 硬質じり砂 礫率10~15%で半クサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫は花崗斑岩。礫径は2~30mmの歪角礫。																							
	17.04	4.50							4.40~4.50m付近はスライムで、粘土状の細粒部からなる。																							
	16.83	4.65							4.65~6.60m: 砂礫 礫率50%。砂は径0.5~2mmの極粗粒砂~粗粒砂。 4.65~5.85m付近は径5cm以上の礫が多く含まれる。																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水基色 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)						
															( N 値 ~ 深層 ) 図	( N 値 )																	
6		15.55	6.60	砂礫	灰褐色						5.40~5.60m付近には一部明赤灰色、明褐色、暗赤褐色の礫が認められる。	0 50 100																					
		15.41	6.80	コア欠如	明褐色		5.72~5.74m: 暗褐色シルト (スライム)																										
7		15.16	7.15	礫混じり砂	明褐色						6.15~6.30m付近は礫が著しく減少する。	0 50 100																					
		15.06	7.30	有隙質土	黒褐色		6.30~6.60m付近は径1cm以上のクワサリ礫の礫が多く含まれる。礫種は花崗閃岩。礫径は2~50mmの垂角礫-垂円礫主体、一部最大径200mmの礫あり。																										
8		14.88	7.55	礫混じり砂	にぶい黄褐色						6.60~6.80m: スライム シルト混じり細~中粒砂からなる。	0 50 100																					
		14.14	8.60	コア欠如	灰黄褐色		6.80~7.15m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クワサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗閃岩。礫径は2~30mmの垂角礫主体。																										
9		14.03	8.75	礫混じり砂	明褐色						7.15~7.30m: 有隙質土 有機物を多く含む。	0 50 100																					
		13.96	8.85	コア欠如	明褐色		7.30~7.55m: 礫混じり砂 礫率5~10%で半クワサリ礫を多く含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。礫種は花崗閃岩。礫径は2~30mmの垂角礫-垂円礫。																										
		13.50	9.50	礫混じり砂	褐灰						7.55~8.60m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。	0 50 100																					
		13.15	10.00	コア欠如	灰黄褐色		8.60~9.50m: 礫混じり砂 礫率10~15%でクワサリ礫や半クワサリ礫を多く含む。砂は径0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗閃岩。礫径2~30mmの垂角礫-垂円礫。																										
											9.25~9.35m付近に黒色土(土壌)に挟まれた砂層が認められる。黒色土層、砂層共に55°傾斜し全体の幅は10cm(貫層は黒色土2cm、砂4cm、下2cm)。黒色土層(上下)中に植物片が認められる。																						
											9.50~10.00m: スライム シルト混じり細~中粒砂からなる。																						

標尺	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水基色 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コブチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															( N 値 ~ 深度 ) 図	N 値																
11		12.69	10.05	砂礫	黄褐						10.00~10.65m: 砂礫 礫率50%以上で半クリ礫を一部含む。砂は径0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗閃岩で一部アブライト含む。礫径2~200mmの垂角礫~垂円礫。																					
		12.41	11.05	コア欠如	灰黄褐								10.65~11.05m: スライム シルト混じり細粒砂からなる。																			
		11.84	11.85	砂礫	にぶい褐								11.05~11.85m: 砂礫 礫率50~60%でクリ礫~半クリ礫を含む。砂は0.5~2.0mmの極粗粒~粗粒砂。径0.5~1cmの石英が多く含まれる。礫種は花崗閃岩。礫径2~100mmの垂角礫~垂円礫。																			
		11.66	12.10	コア欠如	にぶい黄褐								11.85~12.10m: スライム シルト混じり中粒砂からなる。																			
12		11.39	12.49	粗砂	明褐						12.10~12.49m: 粗粒砂 礫率5%未満でクリ礫を含む。砂は0.5~1.0mmの粗粒砂。礫種は花崗閃岩。礫径2~30mmの垂円礫。																					
	13										12.49~14.07m: 花崗閃岩 12.49~14.84m: D 強く風化した土砂状を呈するが、原岩細粒は残存する。割れ目は一部消滅しているが、多くは発達している。所々、軽1mm程度の灰白色の結晶が脈状に分布する。割れ目は10~30°の低角度系が主体。																					
14											14.84~24.44m: Cl 全体に10~30°の低角度割れ目主体で、一部で割れ目沿いに風化で砂状化が進んでいる。18.30m以浅では所々、マンガン染染性う。																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原付置試験 (孔内水基色)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
															( N 値 )	( 図 )												
		16	花崗斑岩	花崗斑岩	Dg	Vg					15.22~15.44m: 硬さCの硬質岩片が残留している。																	
	17	16.00~17.62m: 割れ目周辺に硬さ「E」が部分的に分布する。																										
	18	16.75~16.84m: 径30~40mmの硬さ「C」の硬質岩片が塊状に分布。																										
	19	17.44m: 傾斜15°の割れ目沿いに幅1~4mmが砂状化する。																										
		18.10~22.19m: 上下に比べ割れ目少なくなる(コアの形状IV)。 18.31m: 傾斜10°で幅10mmマンガン鉱染が帯状に分布、黒褐色化する。																										
		19.60m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅10mm砂状化する。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原付置試験 ( 孔内水基色 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)		
														N 値	値													
		21		花崗斑岩 にみじく	Dg	IVg				20.37~20.43m: 傾斜10°の割れ目沿いに幅2~10mmで暗褐色の岩片混じり粘土を挟む。一部は不規則な割れ目に流入する。																		
	22	21.16~22.01m: 割れ目沿いに幅10~30mmで砂状化する部分がある。																										
		22.01~22.19m: 硬さ「C」の硬質部が残留。																										
	23	23.05~23.80m: 20~30°と70~90°割れ目が交差し一部で交差部周辺で径10mm程度に細片化。岩片も硬さ「C」まで軟化している。割れ目面にマンガン汚染がみられる。 22.15m: 傾斜12°の割れ目沿いに幅15mmで褐色化する。																										
	24	24.16m以深では硬さ「E」も含む。全体に濃い岩片多い。 24.44~24.71m: D風化で土砂状を呈する。岩組織や割れ目はほぼ消滅している。 24.71~26.62m: Cl 10~30°割れ目が主体で割れ目沿いの一部は砂状化する。																										

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(m) / 測定月日	(標準貫入) 試験 (N値~深度) 図					原付置試験(孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径(mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
															N	値	0	10	20												30	40
				花崗斑岩		Dg	IVg	cg	δ	3	25.03m: 傾斜18°の割れ目沿いに幅7mmの石英脈。マシガン脈を伴う。周辺は黄褐色化する。 26.00m以深では割れ目沿いの砂状化が更に進む。 26.62~27.60m: D 27.00m以深では割れ目や原岩組織は残存するが、27.10m以深では再岩ともほぼ消滅し砂礫状で採取されている。	0																				
		1.13	27.00	コア欠損							27.00~27.10m: コア欠損。																					
		1.06	27.10	花崗斑岩		Er	VIg	dg			27.60~28.00m: Cl 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目を言み細片化し易いものも言んでいる。																					
		0.42	28.00	コア欠損							28.00~28.19m: コア欠損。																					
		0.29	28.19	花崗斑岩	明礫灰	Dg	Vg	cg	δ	3	28.19~28.61m: Cl 割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。																					
		-0.01	28.61	コア欠損							28.61~28.69m: コア欠損。																					
		-0.06	28.66	花崗斑岩	明礫灰	Dg	Vg	cg	δ	3	28.69~28.84m: Cl 割れ目沿いで砂状化する。																					
		-0.29	29.00	コア欠損							28.84~30.74m: D 砕った砂状化を呈する。径10~30mm程度の長さ「D」岩片が礫状に砕った砂状部中に分布し砂礫状を呈する。																					
		-0.35	29.09	コア欠損							29.00~29.09m: コア欠損。																					
				花崗斑岩	明礫灰	Er	Vg	cg	δ	3																						

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記 事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← → R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		室内試験 ( 孔内水圧含む )	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
														( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																			
		31	花崗斑岩	明褐灰	Eg					30.17~30.50m: マンガン鉱染伴う。 30.30~30.50m: 石英多く晶出(一部は変態による二次増殖と推定される)。 30.30m: 傾斜5°で幅1~3mmの石英脈を不連続に挟む。  30.74~32.40m: CL 硬さ「D」主体だが部分的に硬さ「E」も含む。上端側の30.74~31.30m間は酸化汚染による黄褐色化が進むが酸化は伴わない。 31.05~31.23m: 熱水変質による粘土化変質。珪化変質が著しく、前層で厚白色系粘土。後層では石英が脈状~晶洞状に晶出している。また、マンガン鉱染と酸化汚染も伴い全体として黄褐色の濃い色調を呈する。 31.47m: 傾斜35°で幅5~8mmの灰褐色の砂泥シリシルトを挟む。  31.70~32.20m: 割れ目沿いの砂状化が進み「砂泥シリ岩片状」を呈する。岩片は径10~30mm程度の硬さ「D」で残留するが全体にやや上下に比べ脆くなる。																								
		32		黄褐 にふい黄緑	Dg						32.48~32.70m: D 原岩組織と割れ目はほぼ残留している。  32.70~34.54m: CL 割れ目沿いに厚さ1~2mm程度で薄く砂状化部を挟む。一部で砂状化が進行する部もある。白濁化した長石多い。割れ目は10~20°が主体、一部で70~80°割れ目と交差。  33.17m: 15°割れ目と75°割れ目が一部は交差し、一部は75°割れ目が15°割れ目で止まっている。15°割れ目には細粒部が認められず、割れ目周辺の岩部には原岩組織が認められ、15°割れ目に系統的な割れ目も存在しない。 33.40m: 15°割れ目沿いに厚さ20mm砂状化。  33.76m: 5°割れ目沿いに厚さ10mm砂状化。  34.00m以深。密着度の低い潜在割れ目多くハンマーの打撃で細片化する。また、割れ目も消滅しかかっている。 34.03m: 40°幅2~3mm石英脈、密着して連続。																							
		33		明褐灰	Dg						●34.54~34.59m: 破砕部 34.54~34.59m: 粘土混じり岩片状部(H) 上端10~40°で大きく湾曲、下端11°で直線的に連続。径5mmの花崗斑岩岩片主体で岩片間は粘土状~砂状を呈する。にふい黄褐色を呈する。幅40~50mm。 34.59m: 硬泥じり粘土状部(Hc-2) 上下端とも11°で直線的に連続。径1mmの石英粒を10%程度含む。灰黄褐色を呈する。幅2~4mm。 34.59~35.37m: CL 細片化し易いゆるぎ割れ目が多い。10~30°と50~70°の割れ目がみられる。																							
		34		明褐灰	Dg																													

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水基色 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																																																																																	
															( N 値 ~ 深度 ) 図	N 値																																																																																																																																																																												
		36	花崗斑岩	明褐灰	Dg	δ	γ	δ			36.00~36.26m, 36.53~36.67m: 硬さ「C」の硬質部が残留する。	CL'																																																																																																																																																																																
		37									36.70m以深で径10~30mmの硬さ「D」ないし「C」の岩片が塊状に残留する。																			D'																																																																																																																																																														
		38									37.15~42.00m: CL 0~30° 割れ目主体で、割れ目沿いの一部で砂状化する部分も含む。																																													δ																																																																																																																																				
		39									37.00m: 5° 割れ目沿い40~20mm砂状化、微細な白雲母が晶出している。																																																																							Dg																																																																																																										
											38.56~38.74m: 径20~30mmの硬さ「C」岩片が残留する。																																																																																																																																																																																	
											39.26~39.70m: 硬さ「C」の径30~50mm岩片が多く残留する。																																																																																																																																																																																	
											39.90m: 径10~20mm, 0° で淡緑色部が分布 (緑泥石濃集部と推定される)。																																																																																																																																																																																	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状区分	岩種	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) 測定月日	標準貫入 (試験)		原付置試験 (孔内水深)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアシューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)					
															(N 値 ~ 深度)	図																
41			花崗斑岩	肌縞灰	Dg	Vg	cg	3			40.32~40.77m: 割れ目沿いの砂状化進む。硬さ「D」ないし「C」の岩片がその中に残留し、全体として砂状化を呈し、上下に比べやや軟くなる。低角度の割れ目の他、60~80°の割れ目も分布する。	0	50	100			0	10	20	30	40	50										
42																																
43					肌縞	Vg	cg	3				41.50m: 割れ目沿い幅30mm淡褐色化(緑泥石化)し、径0.5~1mmの微細な白雲母が晶出している。	0	50	100			0	10	20	30	40	50									
44																																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水圧 )	室内試験	掘進速度 (cm/時)	掘進月日	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)										
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																	
46			花崗斑岩	にぶい橙	淡黄	Es	ve	dg		4	●45.36~45.39m: 破砕部 45.36~45.39m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端やや不明瞭で62°で波打って、下端65°で直線的に連続。径5mm前後の細かい岩片からなり、岩片間の一部が粘土化。にぶい橙色を呈する。幅5~10mm。 45.39m: 硬混じり粘土状部 (Hc-2) 上下端とも65°で直線的に連続。一部で幅1mmの2本に分岐。取れんする。やや軟質で、径1~2mm石英粒~10%含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 45.39~46.12m: D 幅1mm前後の軟質な白色粘土層が多い。強変質しているが、原岩組織は残留する。 ●46.12~46.17m: 破砕部 46.12~46.16m: 粘土質岩片状部 (H) 上端31°でやや不明瞭ながら直線的に、ト跡35°でやや波打って連続。径5~10mmの粘土化岩片が粘土化基質中に線状に分布。下位のHc-2の粘土と平行した細かい割れ目や幅1mmの白色粘土細脈が分布。淡黄色を呈する。幅2mm。 46.16~46.17m: 硬混じり粘土状部 (Hc-2) 上端35°でやや波打って、下端35~40°で大きく湾曲して連続。やや硬質で、径1~2mm石英粒、径3mm粘土化岩片を20~30%含む。淡黄色~黒褐色を呈する。幅2~10mm。 46.17~47.40m: D 変質し、灰白色粘土が網目状に分布する。 46.73m: 55°割れ目。幅1mmの赤褐色粘土層。赤褐色粘土は途中でせん断し、赤褐色粘土の直下の灰白色の細粒部も不連続で、いずれも連続性に乏しく、割れ目周辺の原岩組織も明確に認められる。また、同様な灰白色の細粒部は、深度46.20m以下に稀な方向で認められる。 ●47.40~47.51m: 破砕部 47.40m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端とも60°で直線的に連続。やや軟質で、径1mm石英粒を5%含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 47.40~47.51m: 硬質砂状部 (Hs) 上端50°、下端55°でいずれも直線的に連続。軟質で、径2~3mm石英粒を20~30%含む。黄褐色を呈する。幅70mm。 47.51~47.60m: D 原岩組織と多くの割れ目は消滅せずに残留している。砂、マンガンなどの痕跡物をもつ割れ目が多い。 47.80~48.80m: CL 20~30°割れ目沿いに著しく軟化した硬さ「E1」も所々に分布する。白色粘土細脈やマンガン塗染を伴う。 48.80~49.17m: D 著しく軟化するも原岩組織と割れ目の一部が残留している。 49.06mに62°の割れ目が分布。挟在物のない平滑な割れ目。割れ目の連続性は乏しい。 ●49.17~49.22m: 破砕部 49.17~49.20m: 粘土質砂状部 (Hs) 上端25°で波打って、下端30~36°で湾曲して連続。軟質で、上端には幅1~2mmの直線的な暗褐色粘土層を挟む。径2~3mm石英粒、径5mm粘土化岩片を20~30%含む。灰白色~明黄褐色を呈する。幅10~25mm。 49.20~49.22m: 粘土状部 (Hc-2) 上端30~36°、下端35~40°でいずれも湾曲して連続。軟質で、弱い網状構造のみ認められる。径1~2mm石英粒を5~10%含む。明黄褐色を呈する。幅7~15mm。 49.22~49.27m: 上端35~60°で湾曲し、下端20°で波打って連続。上位の破砕部と比べて硬質で、径2~10mmの石英粒や岩片も強く、原岩組織が明確に残る。岩片間に分布する粘土層に系統性がない。下位の硬岩部との境界は漸移的である。にぶい黄褐色を呈する。 49.27~49.40m: D 20~30°割れ目が多く残留するが割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 49.40~51.94m: CL 硬さ「C」の岩片が主体で一部に軟化した「D」も含む。30°前後の割れ目が主体で、一部でこれと直交~斜交する60°前後の割れ目が分布。 51.06m以下は風化と変質は軽微となる。硬さ「R」とは硬質な岩片も混ざる。 49.45m: 傾斜65°で幅15mmのアブライト脈を挟む。																						
47											にぶい橙	黄褐						8															
48											にぶい黄橙							3															
49											にぶい橙							4															

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → (%) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原付置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																		
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値																																																																																																													
51			花崗斑岩	花崗斑岩	にふい橙	Dg	og	δ	3		50.12~50.15m: 傾斜50°程度。幅10~20mmで岩片化した赤褐色部を伴う。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																																																																														
52											花崗斑岩																				花崗斑岩	にふい橙	Dg	og	γ	2	51.06~51.94m: 割れ目や密着度が低い潜在割れ目が多い。潜在割れ目も褐色化している。 51.24~51.62m: 割れ目挟在物は殆んど分布しない。それ以外では割れ目沿いに幅1mm砂状化するものが多い。所々に幅0.5~1mmで密着した石英脈が分布。 51.63m: 15°割れ目沿い厚さ10mmが砂状化。	0 50 100	D'		0 10 20 30 40 50																																																																																				
53																																					花崗斑岩																								花崗斑岩	にふい橙	Dg	og	δ	3	51.94~52.72m: D 若しく軟化するが原岩組織と割れ目は残留している。 52.16m: 23°厚さ3mmの軟質褐色粘土を挟む。上端にマンガンを伴う。 52.32~52.50m: 厚さ1D1が主体。 ●52.72~52.81m: 破砕部 52.72~52.80m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端56°で直線的に、下端14°で波打って連続。径5~10mm岩片 (径さ1D) 主体と岩片間の幅1~2mm脈状~径2~5mm斑点状粘土部からなる。明褐色を呈する。幅40~90mm。 52.80~52.81m: 硬凝じり粘土状部 (Hc-2) 上端14°で波打って、下端14°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒、径2~3mm粘土化岩片を10~20%含む。灰白色を呈する。幅7~10mm。 52.81~52.17m: D 変質し、軟質化している。30~50°程度の割れ目がみられる。 ●53.17~53.22m: 破砕部 53.17m: 硬凝じり粘土状部 (Hc-2) 上下端29°で直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英粒を10%程度含む。灰褐色を呈する。幅2mm。 53.17~53.22m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端29°、下端27°でいずれも直線的に連続。径5mm前後の粘土化岩片と岩片間の粘土~砂状部からなる。全体に明褐色を呈するが、上下端付近にはマンガン鉱染を伴い黒褐色化する。幅40mm。 53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 砕った砂体を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く露出し径10~20mm脈状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 柱石でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.00m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや暗くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部褐色化する。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																																																						
54																																																																			花崗斑岩																											花崗斑岩	にふい橙	Dg	og	δ	3	53.22~53.45m: CL 20~30°の直線的な割れ目が多い。 53.45~53.54m: D 砕った砂体を呈する。原岩組織と一部の割れ目は残留。 53.54~56.66m: CL 傾斜30~50°の割れ目が主体となる。 53.87~54.10m: 石英が多く露出し径10~20mm脈状~幅5~15mm・45~65°の脈状で分布する。 53.87~54.00m: 柱石でレンズ状の石英も分布する。 54.00~54.00m: 石英脈なし割れ目沿いに砂状化し、全体がやや暗くなる。また同区間ではマンガン鉱染も伴い黒褐色を帯びる。 54.82m: 傾斜50°で幅2mm以下の黄褐色粘土を挟む。周辺は一部褐色化する。	0 50 100	CL'		0 10 20 30 40 50																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原付置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)																																																																																																																																																				
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N 値 )																																																																																																																																																															
		56	+ +	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを含む。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬軟となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化層する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に、軟化コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン染染を受ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.24~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土層層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英脈。径5~10mm粘土岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。φ30mm。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英脈をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、綿状構造がみられる。径5~7mm。 59.85~60.99m: CL	7 0 000	CL'																																																																																																																																																																		
		57																																				+ +	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを含む。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬軟となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化層する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に、軟化コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン染染を受ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.24~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土層層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英脈。径5~10mm粘土岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。φ30mm。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英脈をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、綿状構造がみられる。径5~7mm。 59.85~60.99m: CL	5 0 000	CL'																																																																																																																															
		58																																																																						+ +	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを含む。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬軟となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化層する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に、軟化コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン染染を受ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.24~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土層層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英脈。径5~10mm粘土岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。φ30mm。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英脈をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、綿状構造がみられる。径5~7mm。 59.85~60.99m: CL	8 0 000	CL'																																																																																													
		59																																																																																																								+ +	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを含む。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬軟となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化層する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に、軟化コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン染染を受ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.24~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土層層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英脈。径5~10mm粘土岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。φ30mm。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英脈をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、綿状構造がみられる。径5~7mm。 59.85~60.99m: CL	9 0 000	D'																																																											
																																																																																																																																													+ +	花崗斑岩							55.00m: 傾斜50°で幅2mmのマンガンを含む。 55.25m: 55°のシャープで直線的な割れ目を境とし、55.25~56.66mは硬さ「C」で硬軟となる。ただし、割れ目沿いの一部では風化で砂状化を伴う。粘土を挟んでいるところが多い。 56.43~56.47m: 35~40°割れ目沿いに軟化し、硬さ「D」を呈する。 56.66~56.84m: D 風化で締った砂状化層する。径10~20mmの硬さ「D」の岩片が塊状に残留する。 56.84~58.77m: CL 56.84~57.90m: 硬さ「D」岩片主体で、一部に硬さ「E」が残留する。 57.30m以浅では、割れ目沿いに風化・砂状化が進む。 57.75~57.90m: コアチューブ引上時に、軟化コア化したものと推定される。 57.90~58.34m: 硬さ「C」岩片主体。 57.96m及び58.05mにそれぞれ45°、50°で幅1~2mm石英脈が密着して分布。各割れ目沿いに軽微なマンガン染染を受ける。 58.28m: 割れ目交差部周辺で砂状化。 58.24~58.77m: 硬さ「D」岩片主体。一部の割れ目沿いで砂状化が進み、割れ目が消滅しかかっているものもある。 58.77~59.82m: D 風化で著しく軟化した締った砂状化部が主体。原岩組織や割れ目は残留しており、一部では砂や灰白色の粘土脈を挟んでいる。 59.18m: 20°、厚さ5mmの軟質な灰白色粘土挟む。 59.28~59.48m: コアの擾乱により割れ目が消滅している。 59.60~59.65m: 3本のほぼ平行な割れ目が55°前後で分布。砂や灰白色の粘土層層(厚0.5~1mm)挟む。 ●59.82~59.85m: 破砕部 59.82~59.85m: 粘土混じり岩片状部(HJ) 上端22°一部不明瞭で波打って、下端28°で直線的に連続。径2~5mm石英脈。径5~10mm粘土岩片と粘土化した岩片間からなる。にぶい褐色を呈する。φ30mm。 59.85m: 粘土状部(Hc-1) 上端28°、下端28°でいずれも直線的に連続。軟質で、径1~2mm石英脈をわずかに(5%以下)含む。灰褐色~灰白色を呈し、綿状構造がみられる。径5~7mm。 59.85~60.99m: CL	10 0 000	CL'																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値)		掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
														(N値)	(N値)															
				花崗斑岩 にみじき粒										0	0															
																						Dg	yg	og	δ	3	60.54m以深は割れ目沿いに風化が進み、硬さ「E」も含まれている。 60.54m以深は硬質となり硬さ「G」が主体である。前者では、割れ目沿いにマンガン鉱集を伴う。 60.32~60.46m間は黄色味を帯びる。	8 [10]	0.00	CL'
61																						IIIg					60.99~61.30m : CH 堅硬。割れ目に挟在物挟まない。			
																											61.30~63.01m : CH 上部部の61.38~61.42m間と62.82m以深は、割れ目沿いに風化が進み砂状化する部分があるが、その他区間では割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	13 [10]	0.00	
62																						Bg	IVg	hg	γ	2	62.53~62.57m : 互いに直交する割れ目交差部で一部細片化するが、砂状化や粘土化による劣化は伴わない。	10 [10]	0.00	CM'
																											62.82~63.61m : 岩片は硬いが硬さ「E」, 割れ目沿いに径2~10mm程度砂状~細かく片状化する。粘土化部や粘土質は挟まない。	m [10]	0.00	
63																						Eg	VIg	dg	ε		63.61~64.00m : D 割れ目沿いの風化が著しく進み砂状化する。径10~60mm硬さ「D」「G」岩片が残留し、「砂礫状」呈する。一部で割れ目が残留している。			D'
																											63.90~63.94m : 60° 幅1~2mm石英脈が2条分布。 64.00~64.33m : CL 50~60° と70° 割れ目がほぼ直交し、交差部では径10mm程度に細かく岩片化する部分もある。			
64																						Cg	Vg	cg	δ	2	64.33~66.07m : CM 割れ目の多くは割れ目沿いに薄く砂状化する。	16 [10]	0.00	CM'
																						Dg	IVg							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 (cm) R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		原付置試験 (孔内水圧計)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																	
														(N値~深度) 図	N 値																																																																																												
		66		花崗斑岩 にぶい層				δ	2	65.22~65.30m: 40° と 70° 割れ目が交差し、幅10~20mmと風化砂状部が拡大している。また、わずかながら白色粘土や微細な黄鉄鉱、セリサイトも伴っている。		GM'																																																																																															
		67																														δ	3	65.90m: 径20mmと大形な石英斑晶が晶出。 66.07~66.62m: CL 風化した粘着割れ目や密着度の低い割れ目が多く、ハンマーの軽打で細片化する。 66.62~67.14m: D 径5~20mm硬質岩片と風化による砂状部からなり、砂礫状を呈する。 66.85m以下では原岩組織や割れ目の一部も残存する。また、部分的に灰白~淡黄色粘土も点在する。 66.97m: 傾斜55° で幅1~5mmの黄灰色粘土を挟む。 67.14~67.27m: Cl 50° 割れ目沿いに軟化が進む。 67.27~67.80m: GM 割れ目沿いに砂状化するものが多い。 67.40~67.47m: 径5~10mmに砕け角礫状化する。 67.00~67.93m: D 50~60° 割れ目沿いに砂状化し、径10mm硬質岩片を含む砂礫状呈する。 67.93~68.15m: Cl 45° 割れ目沿いに薄い砂状部を挟む。 68.15~68.60m: GM 割れ目に挟在物は分布しない。 68.43~68.49m: コアチューブ引き上げ部の硬結で、径5~20mm硬質岩片に砕けている砂や粘土は挟まない。 68.60~69.05m: D 軟化著しい硬さ「E」であるが、原岩組織や割れ目は明確に残存している。 68.60~68.65m: コアチューブ引き上げ部の硬結で砂状化している。 68.79~68.96m間は硬さDの硬質部を含む。 68.96~69.06m: 風化が著しく明黄褐色を呈する。 69.06~69.56m: Cl 30~50° 割れ目主体。密着度の低い潛在割れ目も多く含む。割れ目沿いに厚さ1mm程度と薄く砂状化することが多い。 69.07~69.10m: 幅3cmでマンガンが濃集する。 69.56~69.70m: D 少量の白色粘土細脈を伴う。 ●69.70~69.73m: 硬結部 69.70m: 粘土状部 (Hc-1) 上下端55° で直線的に連続。軟質で、にぶい黄褐色を呈する。幅1mm。 69.70~69.73m: 粘土混じり岩片状部 (Hj) 上端55° で、下端57° でいずれも直線的に連続。径3~10mm硬さE (粘土化) の岩片で岩片間の一部は粘土化する。灰黄色を呈する。幅20mm。 69.73~74.10m: Cl 硬さ「D」と硬さ「C」の区間が交互に出現する。硬さ「D」では割れ目、砂などの挟在物が分布するが、硬さ「C」区間では挟在物はほとんど分布しない。																																																																									
		68																																																										δ	2																																														
		69																																																																																				δ	3																				

標尺 (m)	高度 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬度	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	標準貫入試験 (N値~深度) 図	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	試験		原位置試験 (孔内水圧)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアシューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)
															N	値											
71			花崗斑岩	にぶい橙	Dg	Vg	cg	δ	70.06~70.59m: 45° 割れ目沿いに風化で砂状化する。	70.43~71.27m: 径さ「C」のうち、70.49~70.59mでは径5mmの白濁化した長石が多い。70.59m以深では少ない。	CL'	0	0	0	0	0											
		灰褐		Cg	bg	γ																					
				Dg		δ	71.27~71.60m: 45~60° 幅1mm以下の軟弱な灰白色粘土が脈状に分布する。その一部は風化で褐色化する。71.37~71.50m: 径10mm前後の大型の石英結晶が点在。岩片も径さ「C」と周周より球状化している。	71.88m: 0~10° 幅1mm石英脈が密着して連続。																			
		にぶい橙		Cg	cg	δ																					
72				にぶい橙	Dg	cg	δ	72.10~72.74m: 径さ「C」区間では割れ目挟在物ほとんど分布しない。長石の一部は白濁化する。	72.74~74.10m: 径さ「D」主体だが、径さ「C」の岩片も含んでいる。割れ目沿いに風化、砂状化することがある。	CL'	0	0	0	0	0	0											
			灰褐	Cg	bg	γ																					
73				にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	73.35~73.39m: 厚さ25~40mmで碎った砂状化を呈する。変質している。原岩組織は残留している。	73.65~73.76m: 30°と60°の割れ目が交差し、径10~50mmの岩片状コアを呈する。	U'	0	0	0	0	0											
			灰褐	Dg	Vg	cg	δ																				
74				にぶい黄橙	Dg	Vg	cg	δ	74.36~74.50m: 微砕部	74.10~74.36m: CM	U'	0	0	0	0	0											
			灰褐	Dg	Vg	cg	δ																				
				にぶい黄橙	Vlg	dg	e	3	74.36~74.40m: 微砕部	74.40~74.41m: 粘土状部 (Hc-1)																	
				灰褐	lg	cg	e	3	74.41~74.50m: 微砕部	74.50~75.00m: D																	
									74.50~75.00m: コアシューブ引き上げ部周辺で礫状コアで採取され、割れ目状深など不明。																		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	岩級区分	孔内水位 (m)	試験 (標準貫入)					室内試験 (孔内水圧)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm)	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																																																																																																						
																(N値)	(N値)	(N値)	(N値)	(N値)																																																																																																																
		76	花崗斑岩	花崗斑岩	灰褐色	Eg	dg	3	3	3	75.00~75.57m: 原岩組織は残留しているが、多くの割れ目は消滅している。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																																															
		77																													花崗斑岩	花崗斑岩	Eg	dg	3	3	3	75.57~76.00m: 破砕部 76.00~76.54m: 粘土凝り岩片状部 (Hj) 上端不明瞭ながら25°で、下端60°で波打って連続。径5~20mm岩片からなり、岩片間は粘土化~砂状化する。灰褐色を呈する。幅90~120mm。 76.54~76.70m: 硬さ「C」の岩片部。 76.70~76.91m: 岩片はわずかに残り、残った幅1~2mm散在白色粘土が多数を占める。 76.91~77.19m: Cl 77.19~78.00m: D 若くは酸化するが、原岩組織と割れ目の一部は残留する。 77.63~77.80m: ロッド引上げ時にコアが乱れ、塊状を呈している。 78.00~78.43m: Cl 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も見える。割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。 78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、締った砂塊状を呈する。 78.72~78.87m: 粘土凝り岩片状部 (Hj) 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの散在白色粘土が脈状~斑点状に分布。にぶい黄褐色を呈する。幅130~140mm。 78.87m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。波打って、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 78.87~82.51m: Cl 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜65~90°の割れ目が分布する。 79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片挟む。 79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「Bj」と堅硬。 79.59m: 傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。 79.68~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。 79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み0.5~2mmで挟んでいる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																																																				
		78																																																															花崗斑岩	花崗斑岩	Eg	dg	3	3	3	78.00~78.43m: Cl 60~80° 割れ目主体、これに斜~直交する30°も見える。割れ目の一部は厚さ2~3mmの砂を挟む。 78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、締った砂塊状を呈する。 78.72~78.87m: 粘土凝り岩片状部 (Hj) 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの散在白色粘土が脈状~斑点状に分布。にぶい黄褐色を呈する。幅130~140mm。 78.87m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。波打って、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 78.87~82.51m: Cl 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜65~90°の割れ目が分布する。 79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片挟む。 79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「Bj」と堅硬。 79.59m: 傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。 79.68~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。 79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み0.5~2mmで挟んでいる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																																																		
		79																																																																																																	花崗斑岩	花崗斑岩	Eg	dg	3	3	3	78.43~78.72m: D 風化・砂状化が拡大し、締った砂塊状を呈する。 78.72~78.87m: 粘土凝り岩片状部 (Hj) 上端は31°、幅5mm褐色粘土層で波打って、下端は60°で直線的に連続。径5mm程度の岩片からなり、岩片間の一部に幅1mmの散在白色粘土が脈状~斑点状に分布。にぶい黄褐色を呈する。幅130~140mm。 78.87m: 粘土状部 (Hc-1) 上端60°で、下端60°でいずれも直線的に連続。波打って、径1mm石英粒をわずかに(5%以下)含む。灰褐色を呈する。幅1~2mm。 78.87~82.51m: Cl 78.87~79.27m: 硬さ「D」主体。長石の白濁化が多い。傾斜65~90°の割れ目が分布する。 79.02m: 55°厚さ3mm褐色砂~径2mm細片化岩片挟む。 79.27~80.66m: 硬さ「C」主体。上端側の79.27~79.59mは硬さ「Bj」と堅硬。 79.59m: 傾斜50°で幅0.5~1mmの灰白色粘土を挟む。 79.68~79.95m: 褐色化するが珪化のため硬さ「C」と硬質。 79.96~80.23m: 45°前後の割れ目が多い。これらの割れ目には褐色粘土やマンガンを含み0.5~2mmで挟んでいる。	0	50	100		0	10	20	30	40	50																

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ピット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)									
															( N 値 ~ 深度 ) 図	N 値																			
				花崗斑岩	灰褐色						<p>80.30~80.40m: 割れ目沿いに砂状化が進む。</p> <p>80.30~80.35m: コアチューブ引上げ時に発生した角礫状コア。</p> <p>80.66~81.87m: 硬さ「D」中に硬さ「C」の径2~3cm岩片が断片的に分布。80°前後の高角度割れ目が多い。</p> <p>81.17m: 55°割れ目に厚さ10~15mmで砂と褐色粘土挟む。挟在物中と割れ目周辺に径0.5mm以下の微細な白変母岩。周辺は幅1cm程度緑色化している。</p> <p>81.87~81.87m: コアチューブ引上げ部で締った砂礫状呈する。</p> <p>81.87~82.51m: 割れ目沿いに砂状化する部分も含まれる。10~30°と50~70°程度の割れ目がみられる。</p> <p>82.51~82.67m: 0 風化で砂状化する。径0.5~1cmの花崗斑岩岩片が塊状に分布する。</p> <p>82.62~82.84m: CL 割れ目沿いに砂状化進む。一部で幅1~2mm白色粘土脈挟む。</p> <p>82.94~84.09m: CH ゆる割れ目や岩質度の低い割れ目を多く含んでいる。割れ目の挟在物は少ない。30~50°と70~90°の割れ目が3~10cm間隔で分布する。</p> <p>83.30~83.47m: 長石の一部が白濁化する。</p> <p>84.07~84.09m: 上端45°。下端65°割れ目で囲まれ、砂状化~細片状化する。厚さ1~10mmで厚さ3mmレンズ状の淡黄色軟質粘土とマンガン染染挟む。</p> <p>84.09~84.92m: CH 60~80°の高角度の「ゆる割れ目」を伴うが、密着度は高くハンマーの打撃でも分離しない。</p> <p>84.50m: 36°割れ目の一部に厚さ2~3mmのマンガンを伴う。</p> <p>84.82~84.92m: コアチューブ引き上げ時の擾乱により、割れ目交差部で一部片状コア。岩片自身は整径で劣化や挟在物は伴わない。</p> <p>84.92~85.38m: CL 下位破砕部の直線的なせん断面と同方向の50~60°割れ目やゆる割れ目が多い。</p>																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟状	コア形状	割れ目の状態	風化質	記事	コア採取率 ← (%) 最大コア長 R Q D ← cm L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					室内試験 原付置試験 ( 孔内水圧 差色 )	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアダキュレート	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
														N	( 値 )															
															0	10	20	30											40	50
86				花崗斑岩	灰褐色 Cg IVg og	Vg	og	δ 3		85.01m: 幅1mm以下, 22° 石英脈が50° 割れ目と斜交して連続。  ●85.38~85.41m: 破砕部 85.38~85.41m: 粘土混じり岩片状部 (B) 上層45~50° で1箇所屈曲するが、これ以外は直線的に、下層47° で直線的に連続。軟質で、径2~2mm石英粒と径1~5mm粘土化岩片と基質の砂状~粘土状部からなる。にぶい黄褐色を呈する。幅20~25mm。上層の割れ目沿いにマンガン結晶受け黒褐色化する。 85.41m: 粘土状部 (Hc-1) 上層47°, 下層47° でいずれも直線的に連続。軟質で、径1mm石英粒をこくわずに (5%以下) 含む。灰黄褐色を呈する。幅2mm。 85.41~85.92m: 以上 上層の破砕部の直線的なせん断面と同方向の40~60° 割れ目主体、砂や粘土を挟む。所々、割れ目沿いに幅1~2cm程度緑色化を呈する。 85.92~86.43m: D 割れ目沿いに砂状化が拡大、径10~30mm径さ「C」岩片を多量に混えた砂塊状を呈する。 86.43~86.86m: CM 堅硬であるが、割れ目が多い。挟在物はほとんど分布しない。 86.86~87.20m: CL 50~60° 割れ目沿いを主体に酸化が進む。断片的に径さ「C」岩片も塊状に残留している。 87.20~87.51m: D 風化で砕けた塊状砂状を呈する。幅1~3mmの橙色粘土も断片に分布する。	8 [0]																			
87											明黄褐色 Eg VIg dg F	Vg	og	δ 3		87.51~88.53m: B 割れ目沿いに風化が進んでいる。全体に径さ「C」の岩片が主体である。割れ目には風化程度の高った砂、粘土脈、マンガンを含むことが多い。 87.81~87.90m: 傾斜60° 程度で細片を帯び、マンガンを含む。 87.90~88.51m: 径さC主体、傾斜20° と50° の割れ目が交差し細片化している。 88.06m: 傾斜52° で幅2mmの赤褐色粘土を挟む。周辺は幅1mm程度で緑色化している。  88.51~89.10m: 40~50° の割れ目は1~2cm間隔で平行に分布。割れ目には幅1mm以下の灰白色粘土を挟む。それと60° 斜交して直交する割れ目や幅1mm石英脈も分布。  89.25~89.56m: 上下に比べやや割れ目が少なくなる。  89.56~89.86m: 割れ目沿いに風化が進み全体脆くなる (径さD)。	10 [10]													
88				花崗斑岩	明黄褐色 Eg VIg dg F	Vg	og	δ 3						( 標準貫入 ) 試験 ( N値 ~ 深度 ) 図					室内試験 原付置試験 ( 孔内水圧 差色 )	掘進 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアダキュレート	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)		
89																														

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率		岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	(標準貫入) 試験		掘進月日	室内試験	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コァチューブ/ピット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)	
												(%)	最大コア長 (cm)			N 値	( N 値 ~ 深層 ) 図											
				灰褐色	Bg Wg	γ	2						0															
					Cg Vg	δ	3																					
91					Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
				花崗斑岩	Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
92					Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
				明褐色	Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
93					Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
					Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					
94				暗緑灰	Bg Wg	γ	2																					
	46.30	94.07			Cg Vg	δ	3																					
				アプライト	Bg Wg	γ	2																					
					Cg Vg	δ	3																					



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	記事	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位(測定月日)	(標準貫入)試験 (N値~深度)図					掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)											
																N値	0	10	20	30										40	50									
96	48.37	97.00	[Pattern]	アブライト	明褐灰	Cg	Vg	3	δ	3	3	95.22~95.25m: 割れ目沿いに砂状化、マンガン汚着。 95.30~95.45m: 緑色帯びる。  95.85~96.58m: GM 硬さ「B」と硬いが、密着度の低い割れ目が多く、一部で細片化する。傾斜10~20°とそれと直交する50°の割れ目がみられる。 96.00~96.10m: 割れ目沿いに幅1~2mm砂状化し、灰白色粘土脈も挟む。  96.58~97.11m: CL 傾斜50°程度の割れ目が多く、一部に幅1mmの灰白色粘土や砂状化した部分を挟む。 96.71~96.76m: 傾斜50°の割れ目が密着し、細片化する。コアは数貫である。  97.00~140.00m: 花崗斑岩全体に柱化し、組織が不明瞭になっている。所々、アブライトを挟む。	CL'	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
98	48.77	97.57	花崗斑岩	にみい橙	Eg	Vg	ε	4	4	4	97.57~101.85m: アブライトを挟む。花崗斑岩との境界は上傾45°の割れ目、下傾90°で移着している。 97.57~97.88m: D 硬さ「D」の岩片も残留するが、全体は砕けた土砂状。下傾付近の97.85mに40°幅1~5mm赤褐色葉物脈が分布。全体にマンガン脈を挟み、97.71~97.85m間は大きくうねった割れ目が密集する。 97.88~100.51m: GM 硬質で風化と変質も弱くなる。密着度が低い割れ目や移着割れ目が多く10cm以上の柱状コアはごくわずか。割れ目挟在物ほとんど認められない。 97.88~101.00m: 割れ目沿いに酸化・マンガン汚染がみられる。	CL'	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
																																							99	48.77

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記 事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図					室内試験 掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 (kN・MPa)	回 転 数 (rpm)	送 水 圧 (MPa)	送 水 量 (L/分)	排 水 量 (L/分)							
															N 値	0	10	20	30										40	50					
		51.34	101.20	アプライト	褐灰	Bg	IIIg	bg	γ		100.00~100.51m: ゆるい割れ目や密着度の低い割れ目が多く細片化し易い。																								
		51.62	101.60	花崗斑岩			IVg				100.51~100.72m: Cl 風化で一部割れ目沿いに砂状化し、幅5~10mmでマンガン鉱染も受ける。 100.72~102.35m: CM 割れ目には挟在物はほとんど認められない。一部でゆるい割れ目や密着度が低い割れ目が分布し、ハンマーの強打で細片化し易い。全体に径2~3mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 101.20~101.60m: 間は珪晶がやや多く花崗斑岩となる。アプライトとの境界は漸移的である。																								
		51.80	101.85	アプライト							101.57~101.58mと102.00~102.05m間は割れ目沿いに片状~塊状に砕けているが、粘土や軟化部は分布しない。 101.61~101.72m: 傾斜70~80°の割れ目の一部に白色脈(幅2mm以下)を挟む。 102.05~102.35m: 高角度で密着度の低い割れ目やゆるい割れ目が多い。																								
				灰褐色		Bg		bg	γ		102.35~105.00m: CH 上下に比べ割れ目が少なくなる。部分的に割れ目沿いに薄く砂状化した粘土質やマンガンを挟むが全体では挟在物はほとんど含まない。径2~5mmの暗緑色鉱物(緑泥石?)が点在する。 102.65m: 傾斜50°で幅1mmの石英脈を伴う。 102.75m: 傾斜45°の割れ目に沿って白濁化している。																								
				花崗斑岩			IIIg				103.30m: 傾斜70~80°で互いに交差する幅1~5mmの石英脈を伴う。 103.52~103.54m: 割れ目沿いに薄く砂状化する。																								
											103.98m: 傾斜50°の割れ目に沿って幅5mm程度緑色化している。																								

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	( 標準貫入 ) 試験		原付置試験 ( 孔内水基色 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)			
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値														
				花崗斑岩			IVg	cg			105.23~105.25m: 65° 割れ目は幅1~3mmの緑色粘土脈挟む。磁輝は伴わない。																			
							IIIg				105.72m: 傾斜60° で幅1mmの緑灰色粘土を挟む。																			
							Bg				106.30~108.50m: 所々、長石の線状石化が見られる。																			
							IVg	bg			106.33m: 60° 割れ目沿い幅5mmが細片化する。粘土は伴わない。																			
							IIIg																							
							IVg				107.40~107.83m: CM																			
							IVg				107.52~107.55m: 各々40°、53° 割れ目に囲まれ細密片化~砂状化する。粘土は伴わない。																			
							CG	Vg	cg	δ	3	107.83~108.24m: CL 風化で割れ目沿いに軟化が進む。																		
											108.20m: 50° 割れ目と周辺の割れ目はマンガン染染受ける。																			
											108.24~109.99m: CM 硬質であるが、砂着割れ目や密着度が低い割れ目が多くハンマーの強打で細片化する。割れ目には挟在物はほとんど分佈しない。																			
											108.64~108.76m: アブライト脈を挟む。上端・下端とも50° 程度で境界は明瞭で砂着している。																			
							Bg	IVg	bg	γ	2	109.00~109.14mと109.41~109.60m間は割れ目が密集し、長さ10~30mm主体の硬質岩片化している。																		
											109.98~110.43m: CH 砂着割れ目や密着度の低い割れ目を含まない棒状コアとなる。																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記号	コア採取率 (%)	岩級区分	標準貫入試験 (N値~深度) 図		室内試験 (孔内水圧)	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
														N	値																
111	58.07	110.72	+	花崗斑岩	褐灰	Mg					110.43~112.04m: CM 堅硬で割れ目に挟在物はほとんど分布しない。	0 50 100	D	0 10 20 30 40 50																	
				インフラマイト	灰褐色	Bg			110.72~111.54m: アブライト脈を挟む。上傾15°で破砕割れ、下傾45°で湾曲し、境界は明瞭で一部付着している。																						
112	58.69	111.94	+	暗緑灰色に富み	暗緑灰	Bfg					111.13~111.37mは緑泥石化で暗緑色を呈する。	0 50 100	D	0 10 20 30 40 50																	
				花崗斑岩	灰褐色	Bg			111.37~111.54mは最大径2cmの石英、カリ長石からなるペグマタイト、両者の境界部がよく密着し、破砕や変質は伴わない。																						
113			+	に富み	明褐灰	Bg					112.04~112.83m: CL 30~60°とこれに直交~斜交する50~70°割れ目が主体。割れ目交差部の一部では岩伏化する。	0 50 100	D	0 10 20 30 40 50																	
				花崗斑岩	明褐灰	Bg			112.83~113.51m: CL 割れ目沿いに砂伏化が進むことが多い。																						
114			+	明褐灰	明褐灰	Bg					113.03~113.31m: 消滅したり、消滅しかかっている割れ目も分布する。	0 50 100	D	0 10 20 30 40 50																	
				明褐灰	明褐灰	Bg			113.10~113.10m: コアチューブ引上げ時に乱され、破砕コア化している。全体に灰白~灰黄色の粘土脈を伴う。																						
			+	明褐灰	明褐灰	Bg					●113.51~113.60m: 破砕部 113.51~113.56m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端55°で、下傾66°でいずれも波打って連続。径5~10mm程度の岩片で、岩片間には粘土~砂伏化する。灰褐色を呈する。幅20~25mm。 113.56m: 粘土状部 (Hc-1) 上端66°、下傾66°でいずれも小さく波打って連続。途中で暗1mmの粘土に砂伏する。就中で、径1mm程度に砕けずかに含む。灰白色を呈する。幅1~2mm。 113.56~113.60m: 粘土混じり岩片状部 (H) 上端66°で小さく波打ち、下傾63°、幅1mm以下の灰色の直線的な塊状粘土脈として連続。径5~10mm岩片と岩片間の粘土~砂伏部からなる。このうち、113.58~113.60mは塊状砂伏を呈し、灰褐色を呈する。幅15~20mm。 113.60~113.70m: D 径2~20mmの亜角度を30%程度含む暗褐色砂伏部。下傾傾斜は2系統の割れ目に沿っており、一部は割れ目を充填している。やや軟質。 113.70~114.00m: 傾斜45°程度の2系統の割れ目が分布し、一部は砂伏状を呈する。 114.00~114.75m: CL 高角度80°と低角度20°の割れ目が交差し傾斜30mm以下に岩片化。割れ目の一部は砂伏化~マンガン染染を受ける。一部は掘削時に岩片化したものを含む。 114.75~115.57m: D 風化著しく大半が砂伏化し、砂伏状を呈する。一部は掘削時に岩片化したものを含む。	0 50 100	D	0 10 20 30 40 50																	
				明褐灰	明褐灰	Bg																									

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 ← ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 試験		原付置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)						
															( N 値 ~ 深度 ) 図	( N ) 値																
116				明礬灰		Eg	vg	dg	e	3	115.28m以深では割れ目の一部が残存している。		D'																			
										2	115.52~118.63m: CL 60~70°の高角度割れ目と30°前後の低角度割れ目が交差する。割れ目沿いの多くは砂状化する。一部は掘削時に岩片化したものを言む。																					
117				花崗斑岩							116.87~117.00m: 径10mm前後の礫状コア。これは掘削時に割れ目沿いの砂状部分が流失したためと推定される。 117.00~118.26m: 割れ目沿いに砂状化が進んでいる。岩片は径10~30mm程度「G」主体。割れ目は60~70°とこれにほぼ直交する40°前後が多く、交差部では径5mm前後に細片化するものもある。所々、幅1~3mmの灰白色粘土を挟む。 117.25m, 117.82mなど、60~70°割れ目は40°割れ目を止めている部分がある。止めている割れ目に細粒部は伴わない。もしくは局所的にしか分布せず、割れ目周辺の原岩組織は明確に認められる。		CL'																			
										3	118.10~118.26m: 割れ目の一部は碎屑をマンガン結晶受ける。 118.26~118.63m: 上位よりも更に割れ目沿いの砂状化が進んでいる。厚さ1~2mmの白色粘土層を縦目状に挟む。																					
											118.63~118.94m: D 砂状化が著しくなり、粒った砂状状を呈するものが主だが、径さ「G」岩片のみからなる部分も残存。 ●118.94~119.12m: 礫砂部 118.94~119.10m: 砂泥じり岩片状部 (H1) 上端32°, 下端60°でいずれも直線的に連続。直線的なせん断面に平行な割れ目とこれに60°前後で斜交する割れ目が多く、径5~10mmに細片化した岩片と岩片間の一部に砂状化する。にぶい黄褐色を呈する。 119.10~119.12m: 礫泥じり粘土状部 (Hc-2) 上端60°で直線的に、下端60°で波打って連続。状で、径1~2mm石英粒、径3~10mm粘土化〜径さ「D」岩片を10~20%含む。粘土中には、表面がマンガン化した径1mmの石英粒が多い。浅黄色を呈する。幅13~15mm。また、下端〜上端へ斜交する幅2mmの散在な黑色粘土層が分布する。 119.12~119.30m: CL 60~70°高角度割れ目とこれに斜交する40°割れ目が多く細片化するが、採る物はほとんど分布しない。一部は掘削時に岩片化したものを言む。 119.30~120.78m: CM 一部で密着度の低い割れ目やゆるぎ割れ目が多く、ハンマーの打撃で分離・細片化するが、割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。 119.30~120.00m間は傾斜30~60°程度の割れ目が1~5m程度の間隔で分布し、120.00~120.78m間は傾斜10~30°程度の割れ目が1~10cm程度の間隔で分布する。		D'																			
119				灰礫						2			CM'																			

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 (%) 最大コア長 cm R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 ( ) 試験		原付置試験 (孔内水基色)	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)							
															( ) 値	( ) 図																		
				花崗斑岩 灰褐 褐灰							120.78~122.00m: CH		CH'																					
121		121.00~121.16m: アブライト脈を挟む。上端20°, 下端15°で屈曲した明瞭な境界をもち、面は砂着している。									CH'																							
122		122.00~125.06m: CH 一部で露着度の低い割れ目やゆる割れ目が多い。すでに開口割れ目化するものも多い。割れ目の面はほぼ新鮮で未風化。									Bg																			bg	β	2	122.36m: 傾斜52°, 幅約10mm程度で暗緑色を呈する。	CH'
123		123.36m: 割れ目交差部で幅2~3mm細片状化するが、風化砂状部や粘土土部は挟まない。									IVg																			CH'				
124		124.54m: 55° 割れ目面に厚さ0.5mm, 軟弱灰緑色粘土がフィルム状に付着する。									CH'																							

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記号	コア採取率 最大コア長 R Q D L [%]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入 (試験) 図		室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm/時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ/ビット	給圧 (kN・MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L/分)	排水量 (L/分)																												
															( N 値 ~ 深度 )	( 値 )																																						
		126		花崗斑岩	褐色	硬	wg	β			125.06~125.25m: CL 砂着割れ目などから分層・細片化している。砂や粘土は挟まない。	8 [0]			0																																							
		127																												β	wg	bg			125.28~127.69m: CM 開口割れ目と平行方向の砂着割れ目や密着度の低い割れ目を含んでいる。ハンマーの強打で一部は分層・細片化する。ごく一部(下記127.16~127.25m間)でごく薄く風化する以外はほぼ新鮮、未風化。	10 [10]																		
		127.16~127.25m: 径10mm前後で角礫化している。下底の45°割れ目面には径10mmが径2~5mmで細粒状化し、風化で淡褐色化する。																																																				9 [9]
		128																												γ	cg	δ	2	127.68~128.03m: CL 径5~10mm程度の片状コア主体で、挟在物は下部部の128.06~128.08mが径3~5mm硬質岩片を含む「機質砂」状を呈する以外、砂、粘土など挟まない。一部は細粒時に岩片化している。	8 [8]																			
		128.06~128.64m: CM 各割れ目面は薄く淡褐色化し直上よりも風化するが、砂や粘土など挟在物は認められない。																																																				8 [8]
		129																												γ	wg	δ	2	128.64~128.83m: CL 径10mm前後に細かく砕けた角礫状コアで、各割れ目面には砂が付着することがある。割れ目沿いに風化が進行していると推定される。	11 [11]																			
		128.88~129.91m: CM 60~70°の高角度と30~40°の中角度割れ目の交差部では径10mm前後に片状~角礫状化するが、砂状部や粘土化部は挟まない。																																																				11 [11]
		129.91~131.93m: CH 一部のコアには砂着割れ目や密着割れ目を含むが、ハンマーの強打でも密着し、分層・細片化しないものが多い。																												11 [11]																								
																																																					CH	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化	変質	記事	コア採取率 → ( % ) 最大コア長 ← cm R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験 ( N 値 ~ 深度 ) 図		原位置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 (cm / 時)	孔径 (mm) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給圧 (kN · MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	送水量 (L / 分)	排水量 (L / 分)							
															N 値	( 図 )																		
				花崗斑岩	褐灰	Bg	bg	β	2		130.00~140.00m: 砂着割れ目が約10mm間隔で分布。  131.40~131.52m: 径20~30mmに角礫状化しているが、これはロッド引上時に生じた人為的な現象と推定される。  131.93~138.07m: GM 砂着割れ目や密着度の低い割れ目を多く含んでいる。既に開口化しているものも多い。割れ目の一部は風化で薄く砂状部を挟むことがあるが、挟在物がない(b)割れ目が主体。 132.07~132.24m: 径10~20mm角礫状化する。割れ面に砂が付着するものが多い。微細な貫粒も伴う。同区間は柱状である。 132.18~132.33m: アブライト脈を挟む。上端はコアチューブ引き上げ部で不明、下端は0°で明瞭な境界をもち、面は砂着している。  133.20~133.25m: アブライト脈を挟む。上端、下端とも傾斜5°で明瞭な境界をもち、面は砂着している。 133.40~134.00m: 砂着した密着割れ目沿いに開口化し、径10mm前後に細かく砕けている。  133.82m: 60°割れ目沿い径20mmが径3~5mmの細片状化しているが、風化に起因する砂や粘土は挟んでいない。  134.78m: 傾斜35°で幅2mm以下の石英脈を挟み、一部に白色の細脈を伴う。 134.87~134.91m: 傾斜56°, 幅25mmで緑色化している。																							



標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状図	岩種区分	色調	硬軟	コア形状	割れ目の状態	風化質	変質	記 事	コア採取率 ( % ) 最大コア長 ( cm ) R Q D L [ % ]	岩級区分	孔内水位 ( m ) / 測定月日	標準貫入 ( 試験 ) ( N 値 ~ 深度 ) 図					原付置試験 ( 孔内水圧計 )	室内試験	掘進月日	掘進速度 ( cm / 時 )	孔径 ( mm ) / 孔壁保護	コアチューブ / ビット	給 圧 ( kN · MPa )	回 転 数 ( rpm )	送 水 圧 ( MPa )	送 水 量 ( L / 分 )	排 水 量 ( L / 分 )															
															( N 値 )	( N 値 )	( N 値 )	( N 値 )	( N 値 )																										
											135.41m: 傾斜20°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。 135.45m付近: 傾斜55°の割れ目に幅2~3mmの石英脈を挟む。																																		
136							Bg		β		135.80~136.00m: ゆず割れ目沿いに開口し、長さ10~30mm程度に細片化している。																																		
							IVg				137.00~138.07m: ゆず割れ目が多いが密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。すでに開口割れ目化しているものも多い。径2~3mm程度灰色の燧泥石が斑点状に点在する。																																		
									bg																																				
							Cg		γ		138.07~138.44m: CM 密着度の低い割れ目を多く含み、全体として硬さ「C」である。長石の白濁化や割れ目挟み物はほとんど認められない。径2~3mm暗緑灰色の燧泥石斑点が多い。																																		
							Bg	IIIg	β		138.44~138.80m: OII 堅硬。塊状。ゆず割れ目が多いが、密着度高くハンマー強打でも分離しない。																																		
							Cg				138.80~139.82m: CL 139.18m以浅は硬さ「C」、以深は軟化が進み「D」である。全体に割れ目挟み物はほとんど含まない。 139.93m: 60~70° 厚さ5~10mmで湾曲しながら石英脈が密着→一部割れ目化して連続。 139.95~139.80m: 30~40° と70° 割れ目が交差し岩片状を呈する。劣化は伴わない。 139.18m以深は上位より風化と変質が進む。																																		
							Dg				139.31m: 70° 割れ目沿い厚さ2~3mmマンガンを染染受ける。																																		
							IIg IIIg IVg Vg Dg				●139.82~139.88m: 磁鉄部 139.82m: 粘土状部 (Hc-1) 52°で直線的に連続。軟質で、石英粒、岩片を含まない。暗緑灰色~灰褐色を呈する。幅0.5~1mm。 139.82~139.88m: 砂凝じり岩片状部 (Hf) 上端52°、下端52°でいずれも直線的に連続。径3~5mmに細かく岩片化。岩片間は砂状化 (粗粒砂主体)。岩片の多くは直線的なせん断面方向に配列している。マンガンを染染し、暗緑灰色を呈する。幅40mm。 139.88~139.95m: D 直線的なせん断面と平行に近い割れ目が多い。原岩組織は残留する。マンガンを染染著しい。 139.95~140.00m: CL 硬さ「C」岩片主体。																																		

件名 : [REDACTED]

孔番 : H27-B-1

深度 0.00m ~ 18.00m

[REDACTED]

